

## 第2回 湧別川減災対策協議会 議事概要

日時：平成28年8月1日（月）13:30～15:30

会場：遠軽町役場 3階 第3会議室

構成員：湧別町長、遠軽町長、オホーツク総合振興局長（代理出席）、網走地方気象台長、陸上自衛隊第25普通科連隊長、北海道警察北見方面本部警備課長（欠席）、遠軽地区広域組合消防長、北海道電力株式会社旭川水力センター長（代理出席）、網走開発建設部長

### 《議事内容》

- ① 幹事会の報告
- ② 水害時の対応に係る市町村向け啓発ビデオ
- ③ 「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく湧別川の減災に関する取組方針（案）について
  - ・各機関の現状の取組と課題を情報共有
  - ・各機関が行う概ね5年で実施する取組について意見交換を行い確認
  - ・今後のフォローアップについて

### 《首長等からの主な意見》

#### （湧別町）

- ・行政が避難勧告を発令した場合に、住民が勧告をどのように受け止めて避難行動に移せるのか課題があると考え。そのためには行政だけでなく、住民が自主的に行動する体制づくりが必要である。
- ・また、地域によっても住民の防災意識に違いがある。たとえば、津波の危険性を認識している海岸線の地域は、防災訓練を自主的に行うなど防災意識が高い。一方、津波の影響がほとんど及ばない内陸側の地域は、防災意識が低いように思える。
- ・今回、国が想定最大規模の降雨による浸水想定区域を公表したことはとても意味のあることだと思う。一方、自治体として住民対応を考えた場合、新たな浸水想定区域への対応をある程度、国と町で十分に時間をかけて検討してから、公表していくのも良いのかとも思った。
- ・ハザードマップの作成にあたっては、住民と一緒に作り上げることが大切である。
- ・今後、より一層各関係機関の連携を強めて防災・災害対応していきたい。

#### （遠軽町）

- ・職員の意識向上や資機材等の備蓄は予算の制約等はあるけれども進めることは可能である。

- ・簡単なことではないが、住民の防災に対する意識向上に向けて、引き続き努力していく必要がある。
- ・住民は災害時になかなか逃げないものである。また災害時には、行政が可能な限りの防災対応をしても、被害が発生すれば非難されることもある。避難行動は自己責任で行ってもらおうということを丁寧にかつ強く訴えかけていく必要がある。
- ・国管理河川の想定最大規模の降雨による浸水想定区域図は公表されたが、地域としては北海道の管理する河川も含めた対応が必要となるため、北海道からも助言や支援等をお願いしたい。
- ・以前は、災害時の排水作業を建設会社に協力を頂き対応してきたが、その建設会社が減少している。遠軽町で排水機材の整備を進めているが、関係機関で使用できる排水機材がどれだけあるのか、現状確認と協力体制の構築が必要である。
- ・すぐに取り組んでいくものと、将来的に時間をかけて取り組むべきことを分けて、考える必要がある。
- ・この協議会を通じて関係機関の防災に関する連携が深まれば良いと思う。

#### (オホーツク総合振興局)

- ・今回の公表により、今後の豪雨が想定最大規模の雨か計画規模の雨か住民および自治体は判断することは難しい。避難判断水位などの情報が発令された場合、それをどのように自治体で判断するのか国や道で助言していくことが必要
- ・先述の浸水想定区域では、市街地のほとんどが浸水する自治体もあるので、新たな避難所や避難経路の確保については、大洪水だけでなく、中小規模洪水も見据えながら、現状を確認し関係機関で協力し合いながら設定していくことが望ましい。
- ・想定最大規模の洪水時にはライフラインが停止し、復旧までに数週間時間を要することが想定されるため、オホーツク総合振興局としても自治体に対する支援や助言をしていきたい。
- ・北海道管理区間の浸水想定区域図について、水位周知河川である生田原川については、平成29年度に作成するよう検討している。また、その他の管理河川についてもできるだけ早く作成するよう検討する。
- ・北海道は、排水ポンプを所有していないが、建設業協会と災害協定を締結しており、排水ポンプが必要な場合は、広域的に手配することができる。

#### (網走地方气象台)

- ・住民の防災意識を向上させるためには、各種訓練や普及啓発活動が必要不可欠である。これらは一度で終わらず繰り返し行っていく必要がある。引き続き气象台としても協力していきたい。
- ・また、气象台が発表する気象情報についても文字情報だけでなく図表を含めてわか

りやすく改善を進めているところである。改善点については今後情報共有させていただきたい。

(陸上自衛隊第25普通科連隊)

- ・住民が逃げ出さないのは、警報等に対して危険性を感じていないからと考えている。気象台が発表する気象情報や注警報の発令要領について、地域の方々が危険を認知できるよう具体的に検討する必要がある。
- ・住民を巻き込んだ防災意識向上の取組を進める必要があり、このような会で議論を続けて行くことに意味があると思う。

(遠軽地区広域組合)

- ・大規模氾濫時には、湧別川本川より先に中小支川の氾濫も考えられることから、支川の生田原川やサナブチ川などについても、降雨の程度によってどの程度の水位上昇になるか情報があるといい。
- ・消防で所有しているポンプは能力が低いため、洪水時における浸水箇所の排水は限定される。排水計画を策定する際には、各機関が所有する排水ポンプの保有状況を情報共有し、排水機能・能力等を考慮したポンプ配置を検討するのが望ましい。

(北海道電力株式会社旭川水力センター)

- ・想定最大規模に対するダム設備の洪水に対する検証等を行いたいので、洪水浸水想定区域を検討した際の諸条件について、情報提供してほしい。

《フォローアップについて》

- ・今後出水期前に協議会を開催し、各機関の取り組み状況の確認や取り組みの内容などについて協議していく。